

水への関心

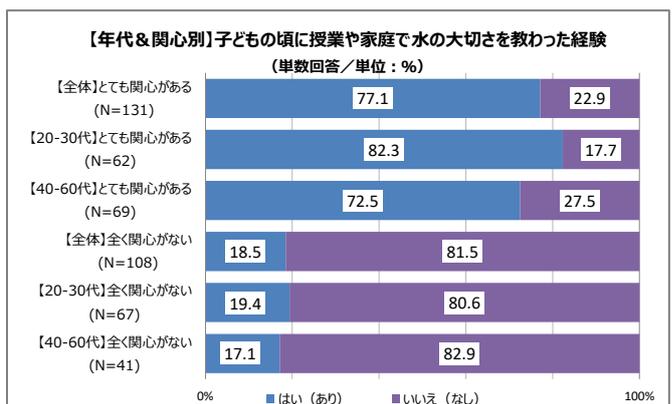
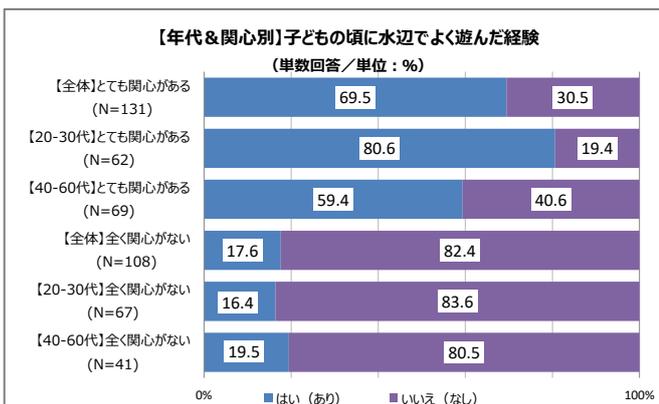
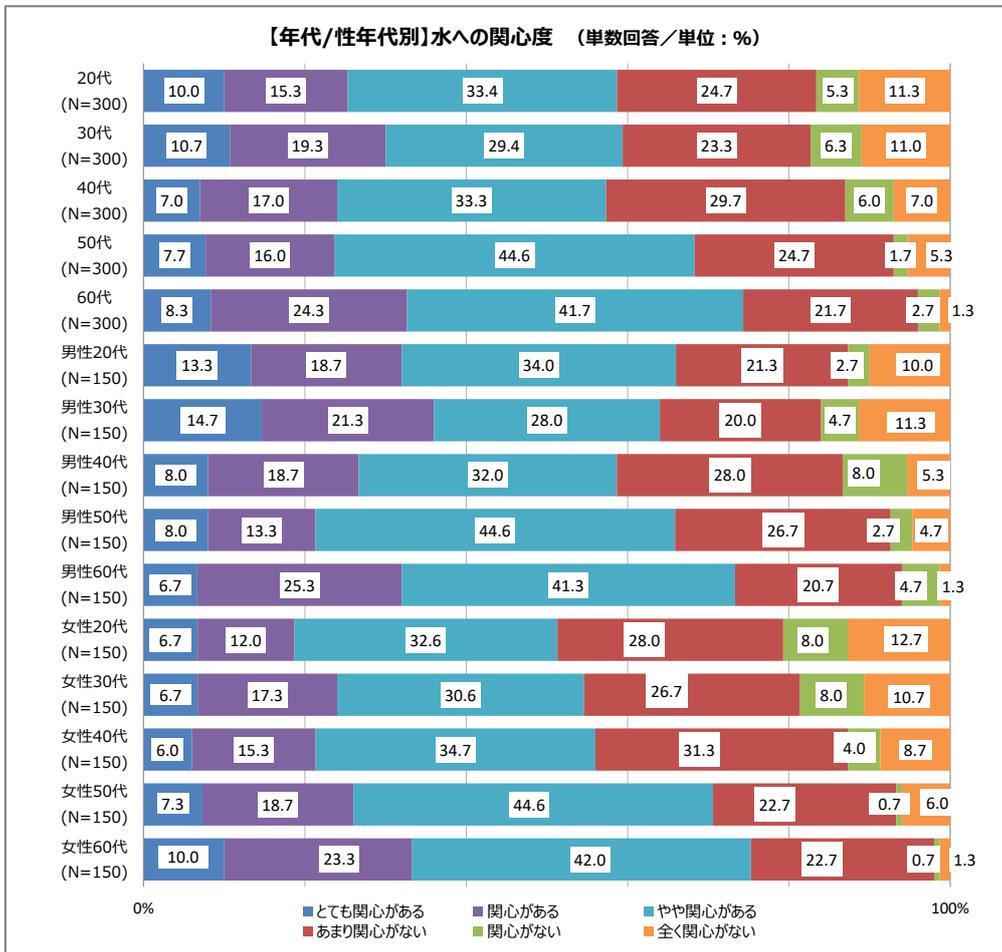
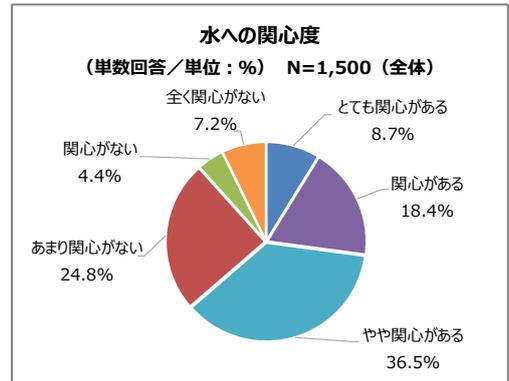
Q.水への関心度は？（6択）

◇水への高関心度層に若者多し

関心を醸成するのは、幼少期の水とのふれあいか？

水についてどの程度関心があるか聞いたところ、「とても関心がある」8.7%、「関心がある」18.4%、「やや関心がある」36.5%となり、これらを合計した“関心あり層”は63.6%でした。「とても関心がある」を年代別にみると、20代が10.0%、30代が10.7%、40代が7.0%、50代が7.7%、60代が8.3%で、若年層の数値が高い傾向にありました。

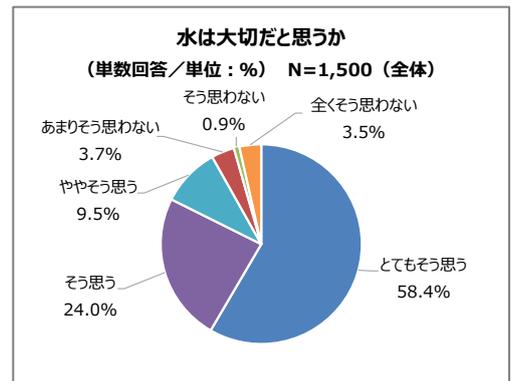
なお、20代・30代の「とても関心がある」回答者は、水に関する体験・経験において、①子どもの頃に水辺でよく遊んだ経験のある人（80.6%）や、②子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わってきた人（82.3%）の割合が40～60代（①59.4%、②72.5%）を大きく上回るなど、多くの人が幼少期に水とふれあう機会を持っていました。こうした経験が、水への関心の醸成につながっているのかもしれない。



Q.水は大切だと思うか？（6択）

◇“大切だと思っている人”は9割超

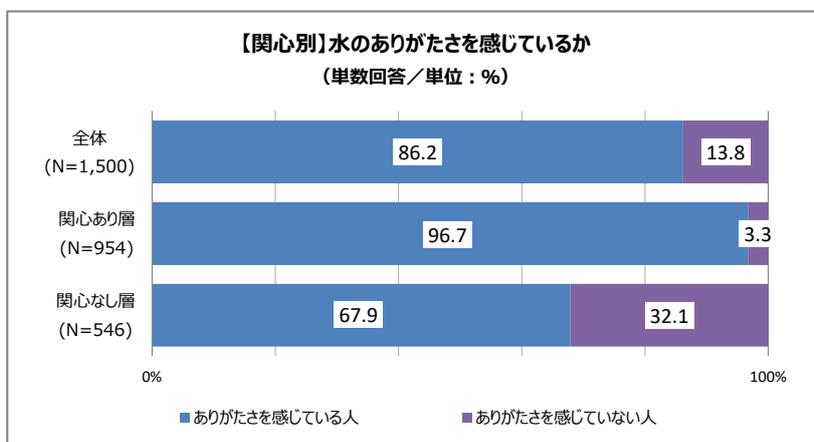
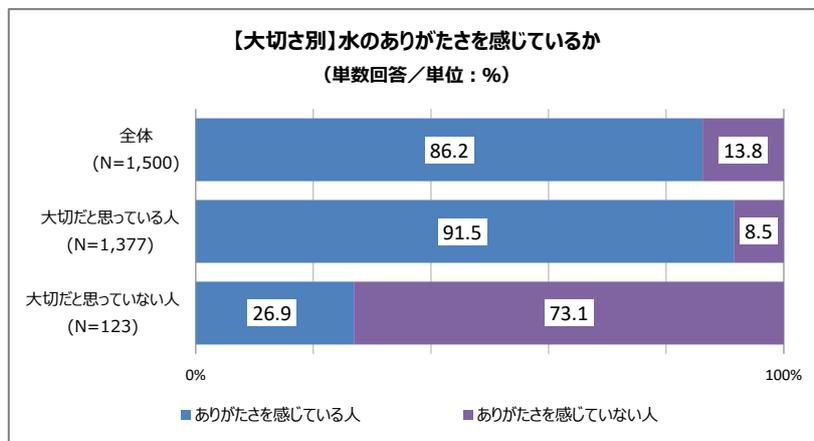
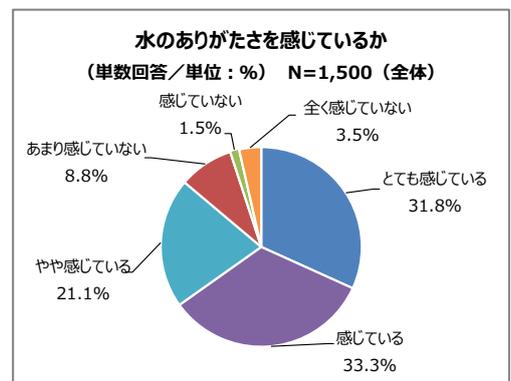
水は大切だと思うかをたずねたところ、「とてもそう思う」58.4%、「そう思う」24.0%、「ややそう思う」9.5%、「あまりそう思わない」3.7%、「そう思わない」0.9%、「全くそう思わない」3.5%となり、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を合計した“大切だと思っている人”が全体の91.9%を占めました。



Q.水のありがたさを感じているか？（6択）

◇水への関心がなくても、ありがたさを感じている人が多数

水のありがたさを日々の生活で感じているかについては、「とても感じている」31.8%、「感じている」33.3%、「やや感じている」21.1%となり、これらを合計した“ありがたさを感じている人”は86.2%でした。“ありがたさを感じている人”を水の大切さおよび、水への関心別にみると、大切さ別では“大切だと思う人”が91.5%、“大切だと思わない人”（「あまりそう思わない」+「そう思わない」+「全くそう思わない」）が26.9%だったのに対し、関心別では“関心あり層”の“ありがたさを感じている人”が96.7%、“関心なし層”（「あまり関心がない」+「関心がない」+「全く関心がない」）が67.9%と7割近くが関心は無くてもありがたさを感じていることがわかりました。

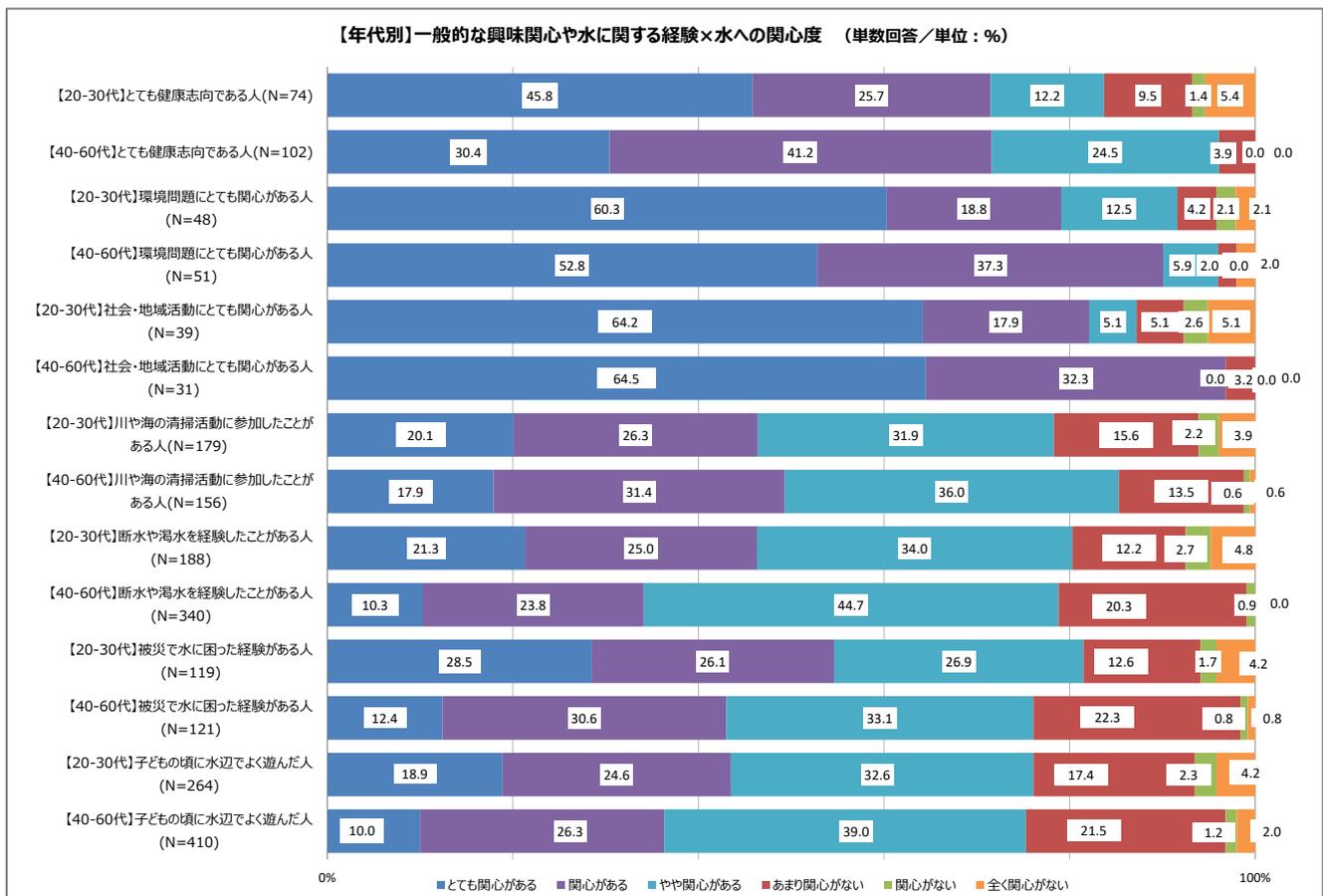


【水への関心】

水と言っても、蛇口をひねれば出てくる水道の水やトイレの水、風呂や温泉の水、コンビニで買うペットボトルや瓶入りの水などいろいろだ。雨だって川だって湖だって水といえば水だし、塩分はあるけれど海だって水だ。なので、「あなたは、水について、どの程度関心がありますか」といきなり聞かれても、困るのが普通だろう。

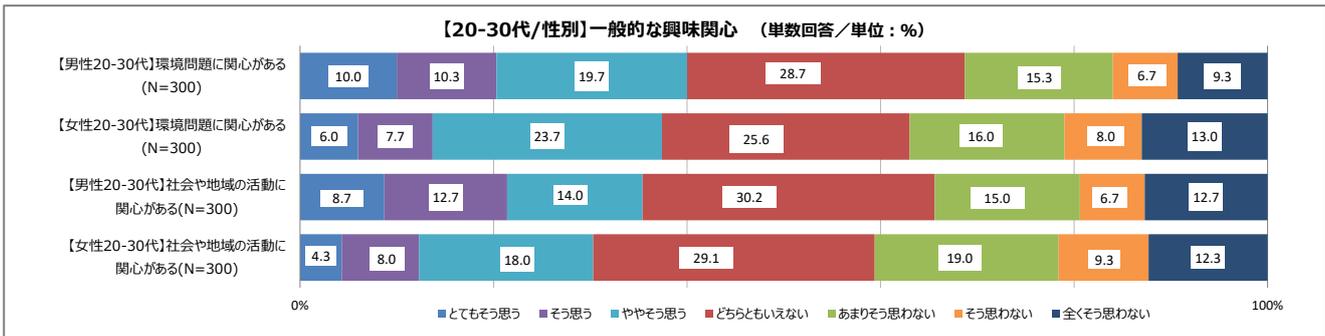
でもまあ、毎日何らかの形で接するし、健康にも関連しそうなので、とりあえず「やや関心がある」と答えておこう…という方が多いのは良く理解できる。年代があがるに連れて「全く関心がない」と答える割合が減るのも、シニア世代の方が健康や環境に関心があったり、水で困った経験があったりするからなのか、と想像がつく。

しかし、20代、30代は「とても関心がある」と答えた方々が10%もいらして、シニア層(40代以上)を凌駕している。しかも、女性ではなく若い男性に「とても関心がある」方が多い(3頁参照)。クロス集計の結果では、健康志向を自認し、環境問題に関心を寄せていて、断水や濁水を経験したことがあったり被災のため水で困った経験があったりする若者(20代、30代)の割合がシニア層よりも多く、そういう方々が水に関心があると答えている。



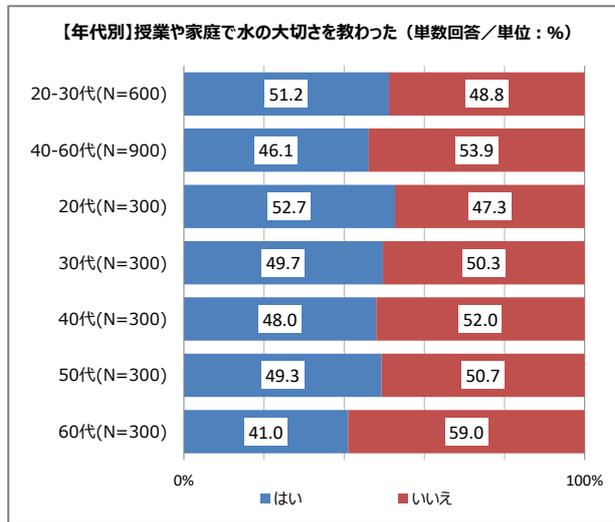
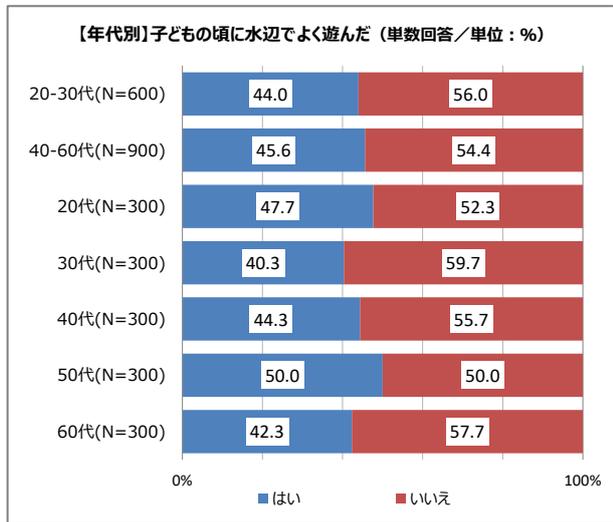
「社会や地域のための活動にとても関心がある」方の中で、水にとっても関心がある方の割合は若者(64.2%)もシニア層(64.5%)も変わらない。ただ、若者の中で「社会や地域にとても関心のある」男性が8.7%なのに対して女性は4.3%、「環境問題に関心がある」男性10.0%に対して女性6.0%といった違いが若者の男女差をもたらしている可能性がある。

一方で、「川や海の清掃など水に関する活動に参加したことがある」方の中で水にとっても関心がある方の割合も若者(20.1%)とシニア層(17.9%)であまり変わらないが値はずいぶん低い。川や海の清掃よりも、「社会や地域にとても関心のある」層の方が水にも関心を持ちやすいようだ。〈次頁へ続く〉



子供の頃に水辺でよく遊んだと答えた割合は若者で44.0%、シニア層で45.6%と変わらないにもかかわらず、子供の頃に水辺でよく遊んだと答えた方の中で水にとっても関心がある方は若者が18.9%、シニア層が10.0%で倍近く違う。

「子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わってきた」にはいと答えた方は60代41.0%、50代49.3%、40代48.0%、30代49.7%、20代52.7%と若い世代ほど水や環境についてきちんと習うようになった状況が察せられる。身近に親しめる水や自然があるし、水汲みの大変さは教えなくても骨身に染みているのでわざわざ教えなくても、というのは戦前の世代かもしれない。



水にとっても関心がある若者の82.3%が水の大切さについて教わっているのに対し、水に全く関心がない若者では水の大切さを教わった若者は19.4%である。シニア層でもそれぞれ72.5%、17.1%であり(3頁参照)、年齢を問わず教育が大事ということかもしれない。

教育に加えて水で困った経験と、健康、環境問題、社会や地域への関心を持っているかどうか水への関心を大きく左右している様子が今回の調査から伺える。